

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200373		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム清水三保の家(1号館、2号館、3号館)		
所在地	静岡県静岡市清水区三保3503-74		
自己評価作成日	平成23年9月5日	評価結果市町村受理日	平成23年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274200373&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成23年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園に隣接している恵まれた環境を生かし、毎日の公園への散歩が日課であり、入居者皆さんの楽しみでもあります。
一日が散歩から始まることで、その日の入居者の様子や心身状態を知る機会でもあります。
施設内は特別な設備はありませんが、家庭的な雰囲気の中で季節を感じ、平穏な日常を送ることを大切にしています。一人ひとりの楽しみを探り、本人のペースで過ごせるよう、またできる限り要望に沿えるよう支援しています。
本人の気持ちの変化に対応できるよう寄り添い、対話の機会をつくり、言動から本心を探りさりげない支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は港湾にもほど近い海辺の住宅地にあり、玄関先では鉢植えの花が出迎えてくれる。隣接する公園への散歩は日課となっていて、利用者の気分転換にもなり、また歩行能力や体調の観察の機会にもつながっている。散歩することで利用者同士の会話も弾み、自分から準備するなど主体的な生活に結びついている。散歩後に毎日提供している午後の入浴は利用者の楽しみのひとつであり、毎日入浴する利用者も多い。開設後8年の実績があるため地域とのつながりも強く、ボランティア活動の受入などが定期的におこなっている。職員の経験も豊富で、外部の研修に参加したり資格試験に取り組む積極的な姿勢が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境づくりに努め、入居者の「家」であることを踏まえたケアを全員で取り組んでいる。	家庭的な状態をめざし、普段から家族と同じように生活できるという観点で支援している。散歩をして近所の人と会話するなど「ごく普通」の生活をめざしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課である散歩時に公園で会う近所の方との挨拶を徹底している。施設と同地域の住まいから入居した方は、入居後も民生委員の面会あり、運営推進会議時には日頃の様子を報告し、本人に声を掛けていただいている。	地域との付き合いは良好で、夏祭りに利用者が参加し屋台での買い物や雰囲気を楽しむことができています。今年度はバイオリン演奏のボランティア訪問があり、利用者が聞き入る様子に職員からも受け入れてよかったとの声があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に合う顔なじみの地域の方と入居者との関わりに寄り添い、お菓子の譲り受けや会話の内容についてフォローが必要な時は、入居者へ配慮しながら説明をして理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、ホームでの行事や取り組み、評価の意義、流れや手順、背景も合わせ評価内容を報告したうえで地域の方、家族に意見を求め、各フロア、職員会議で今後の取り組みについて話し合っている。	運営推進会議は、毎回責任者を替えて開催している。各職員が分担することで意識も向上し、会議の内容も単調にならないで済んでいる。記録は会議録に残し職員が回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者が多い為、生活支援課の担当者との連絡は密に取っている。担当者が異動で変わった場合は、継続して支援ができるよう事業所が積極的に伝えている。	分からないことがあれば、市担当者に電話で聞くようにしている。例えば、東日本大震災による被災地からの転居者の受入について市職員と相談することにより、スムーズに受け入れにつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内課程の「医療安全」、「高齢者虐待防止」の中で身体拘束について繰り返し学んでいる。玄関は日中開錠している。	認知症でも束縛する必要はないという方針がある。スピーチロックについても年数回外部研修に参加するなどして理解を深めている。あまりにも集団生活になじめない症状の場合は、医療機関などに相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の社内課程の中で毎回、「高齢者虐待防止」について繰り返し学び、意識を高めている。市が主催の講演会に積極的に参加し、学んだ内容を職員会議等で伝え情報・知識の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中に成年後見人がおり、運営推進会議で役割や事例等を講義し学んでいる。 実際入居者がサービスを利用しており、職員は入居者のサービス利用の背景を理解し、業務の中で接し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関わる書類に入居者、家族が理解・納得したうえで署名できるよう、書類の内容を一つ一つを説明している。 手続きの最後に不明な点がないか尋ねることを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、入居者、家族へ重要事項説明書に記載された苦情窓口についての説明をしている。玄関に意見箱の設置をしている。 外部評価の家族アンケートの回答内容について職員会議で報告し改善策等話し合っている。	意見箱を設けている。また、運営推進会議では自由に話し合う時間を確保し、家族からの疑問や相談を聞く機会にもなっている。介護相談員による会話の機会も活用して、利用者からの要望や意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、職員が意見や提案を発言できる機会を設け、地域責任者も出席している。 職員全員が発言できるよう、管理者が個々に発言の時間を提供し、意見は各フロアに持ち帰り事実確認のうえ再度話し合い取り組んでいる。	運営の方針については職員間で話し合っている。今年は台風の接近もあり、災害時に備えての手順や備蓄について積極的な意見があげられたなどの例がある。	個人面談など、職員ひとりひとりの意向の把握が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得資格手当があり、給料に反映されている。 経営グループ内で、職員が向上心を持てるよう職員の資格取得について公表している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費補助レポート提出を年3回実施し学習の機会を促し、経費資金の支援をしている。 経験の少ない職員は各フロアの経験のある職員全員でOJTの支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営グループ内の静岡地区のグループホームで毎月会議を開催し情報の共有、連携を図っている。 本部発信の管理者対象の勉強会を合同で行っている。 包括支援センター主催の勉強会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人と昔の話や家族について、世間話等の機会を設け、どんな事に興味があるのかを聞きだし、一緒に楽しむ時間を持ち安心感を持てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が同席しない場所で、家での様子や困った事、不安に思っている事等を聞いている。 施設での生活内容を説明し、面会が困難な家族には、入居後間もない期間は特に頻繁に様子を報告し、安心感を持っていただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の様子を事前に本人、家族、サービス利用担当者から聞き、今一番必要な支援は何かを見極め実行し、本人の様子を見ながら次の支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、各入居者に見合った家事等の役割に参加していただき、本人の意思を尊重しながら共同で作業し取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いに配慮したうえで、家族だからこそ伝わりにくい思いをそれぞれに伝え、関係の修復や誤解を解けるよう支援に努めている。 家族の生活状況を踏まえ、行事の参加や病院受診の協力を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の途中で知人に会った時は、ゆっくり話ができる時間を持てるよう支援し、本人が知人の名前を忘れてしまった時は本人の羞恥心に配慮し代わりに名前を尋ねている。	知人の訪問も受け入れているので、利用者にとっては家族とは違ったかかわりが継続できている。従来から利用している美容院などに継続して行けるような支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	計算ドリルや読書に本人の意思で参加できるよう支援し、共通のものに取り組むことで入居者同士が関わりを持てる機会を提供している。 将棋等、共通の趣味を探り、他フロアの入居者同士が本人の意思で交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も支援できる事があれば連絡いただけるよう家族に呼びかけている。 入院先の病院へ行く機会に面会に寄ったり、他施設へ移った場合は入所間もない時期に施設と家族の了解を得た上で面会に行くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の暮らしの様子を本人から聞き、グループホームでの生活の希望、意向を時々聞き、変化があればなるべく沿うように努めている。 本人の言動や様子から本心を探り、意向に沿えるよう支援している。	家族からの聞き取りを行っているが、普段の会話からも新しく把握できることは多いと認識している。職員主導による取り組みだけでなく、毎日の生活が落ち着いてできることも大切と考え、利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしの様子がわかる資料やケアマネからの情報を職員全員が共有し、職員間で意見交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方の違いを把握し、普段と違う言動が見られたらいち早くキャッチし、職員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話しから課題を見出し、それぞれの要望を踏まえケアに取り組み、暮らしの中で本人に即したケアを提供する為、いつでも修正できるように本人の言動をキャッチし、家族に相談し職員の意見を出し検討、介護計画に盛り込んでいる。	担当制を設けているが、視点が固着しないように全員の意見を取り入れるようにしている。3か月に1回モニタリングし、1号館では漢字や計算ドリルなど予防ケアに取り組んでいる。	課題の少ない利用者については、目標設定とケア方針について事業所独自の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った事があれば、日々の記録とは別に個人ファイルの詳細記録に記入している。 ケアの見直しが必要と感じたら、各職員が意見を出し合いケアを試行し効果を見ながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望や家族との関係、関わり合い方を把握し、その都度必要な支援や支援方法を見極め臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報の収集を心掛け、催し物に参加できる機会を設け、地域社会と関わりながら暮らせるよう支援している。 七夕、みなと祭り前夜祭等本人の意思を尊重し楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に近隣の協力医の説明をし、入居者の病状により入居前から継続して専門医の受診が必要な場合や本人、家族の希望があれば対応できるよう検討し必要に応じ受診の付き添いの支援をしている。	2週間に1回、協力医に状態を報告し、また受診の際にも服薬など今後のケアについて相談している。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしているが、職員が同行することも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問時に詳細記録等と合わせ口頭で状態や経緯を伝え、対応についての指示やアドバイスを受けている。 また一看護師が一人ひとりの不安・不満を聞き、職員全員で改善に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は既往歴、服薬内容、ADL、普段の様子等について病棟看護師へ詳細に伝えている。 入院中は頻りに面会に行き、家族から経過や状態の把握に努めている。家族の状況により必要品の補充や洗濯物の対応もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為ができないことや重度化した場合の対応について家族に説明をし、理解を求めたうえで、できる限りの終末期の支援をしている。 本人の状態の変化が見られたら、主治医に報告し、今後の対応について相談している。また家族に報告し今後予測される状況を説明している。	グループホームとして出来る介護の限界について契約時に説明している。重篤化した場合は医療機関や家族と協議している。また重篤化する前から時間をかけて家族に報告することで、家族との関係継続に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講師による救急法の講習をダミー人形を使って施設内で実施している。急変対応があった後にフロアや職員会議で報告し、対応について振り返り話し合い、職員一人ひとりがその場を想像し意識を高めるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では夜間の想定で実施し、入居者の状態に応じた手順や対応を確認し職員の意識を高めている。訓練ではサイレンが鳴る為、近隣住民には事前に訓練実施の案内をし理解を求めているが、協力体制までは築いていない。	内部開催の訓練は津波や火事も想定し、利用者也参加している。災害時には職員だけでは対応できないことも予想されるので、地域の方に防災訓練への参加や協力を呼び掛けている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、入居者の言動を職員が共有し話し合って思いを探り、自尊心に配慮した言葉かけや対応を心掛けている。	法人内の教育課程に基づいて、個人の尊重やプライバシーを尊重した接遇の教育をしている。職員は利用者ごとに性格が違う事を留意して、利用者との接し方に配慮している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しできる限り希望に沿えるよう、個別に関わる時間を作り、本人のサインを見逃さない様心掛けている。 提案をし、最終的には本人の意思で決められるよう配慮している。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で日課となるものがあるが、その日の本人の体調や希望に沿った過ごし方ができるう、また本人のペースで散歩の距離やタイミングを調整できるよう支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度床屋・美容師が来所し本人の希望に沿ったカットをしている。顔剃りの要望にも応じ支援している。 好みの化粧品の買物代行の要望があり対応している。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1度要望の多いパン食を取り入れ、自炊の日にはリクエストに応えるよう配慮している。体質により食事制限のある方にはストレスを感じないよう代替えのメニューを提供している。配膳下膳、食器・テーブル拭き、下ごしらえの準備も参加していただいている。	味、量、温度など嗜好調査をおこない、好みの食事を提供している。1号館は普通食の提供も多く、パンが好きな利用者が多いのでパン食もよく提供している。誕生日には手作りおやつなどを提供している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がない時は食事の時間をずらしたり食べやすいものに変更したり、必要に応じ栄養補助食品を併用し栄養摂取の確保を支援し、糖尿病の方にはカロリー軽減の対応をしている。水分を摂りやすいよう本人の嗜好に配慮し提供している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けをしているが、昼食後には実施していない方もいる。 本人の習慣によりタイミングや方法を尊重している。介助が必要な方には負担が少ないよう、場所や手順に工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在自立の方が多く、入浴時やトイレ時に汚物の状況や交換頻度を確認し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。 外出前にはトイレでの排泄を声掛け、失敗の予防を支援している。	原則として自主的に排泄できるようにしているが、必要に応じて職員が誘導することもある。自宅で暮らしていた時に比べて生活リズムが守られるようになったため、リハビリパンツから布パンツなどに改善されることも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員同士が声を掛け合い排便サイクルの把握に努め、必要に応じ内服コントロールを実施している。入居者それぞれに水分摂取や体操の呼びかけをして働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水・日曜日は原則入浴は休みとしている。 入居者により毎日、一日おきと希望があるが、その日の体調や気分により本人の意思で決められるよう、意向を確認し配慮した対応をしている。	日曜日を除いて毎日入浴を提供している。2、3人が一度に入浴できるが、希望者には個室を提供している。冬至にはゆず湯を提供し、季節感を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースや過ごし方を尊重し、安全が確保できるようさりげなく見守り、エアコンや喚起で室温管理を行い過ごしやすい環境を提供している。 季節に合った寝具を清潔に保ち、気持ちよく眠れるよう入れ替えや洗濯の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に受け取る、薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも見られるようにしている。 与薬ミスがないよう一包化し名前を明記、複数の職員が何度もチェックできる体制である。症状の変化が見られたら主治医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の暮らしぶりや本人との会話の中から、役割や楽しみごとを見つけ、意向を確認しながら提供するよう努め、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園の散歩は日課として支援している。 その日の体調や気分に合わせて、本人の意向をその都度確認している。 本人の希望により家族の支援を受け外出できるよう協力を依頼している。	毎日午前中に散歩に出かける事を日課としている。散歩の無い日には買い物など自動車で行くこともある。1号館では今年度、レンタカーを手配して日本平動物園に全員で行った。仲間意識も強くなったとの事で、利用者が大変喜んでる様子が写真からも感じられた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方はトラブルにならないよう注意し、本人の希望に合わせ職員が買物代行を行ったり、一緒に買い物に同行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけられるよう支援している。本人宛ての手紙を届け、また本人からの返事の投函の希望があれば代行している。また必要に応じ家族の協力を依頼している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日付や曜日がわかりやすいよう、大きな日めくりやカレンダーを共用の空間に掲示し、季節感のある飾りつけをしてを四季を感じることができるよう環境を整え、室温調整に配慮している。	1号館で造花や飾り付けを工夫し、落ち着いた空間を実現している。共用空間には行事の写真も飾られ、季節感が視認された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞、ラジオ、テレビを通じて気の合った入居者同士で会話を楽しめるよう、ホールの席の並びに配慮している。テーブル席を離れソファで独りになれるよう位置の工夫をし場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や物品の持ち込みについて説明し家族に協力を依頼している。配置について本人、家族と相談しながら行い、使いやすい居心地よく過ごせるよう、入居後も検討し見直している。	居室の掃除は職員がおこなっているが、手伝える利用者は一緒に居室の掃除をおこなっている。1号館では意向が表出できる利用者も多いため、書斎机や温冷蔵庫が持ち込まれ、自宅と見間違えような居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物はわかりやすいように工夫し、入居者ができることは自立してできるように開放しているが、一人ひとりの行動を注意深く見守り、安全にできるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした生活を目標に、入居者様が日常生活を 地域のお年寄りと同じように過ごせるような生活空間が持てるように職員一同が努めている。	家庭的な状態をめざし、普段から家族と同じように生活できるという観点で支援している。散歩をして近所の人と会話するなど「ごく普通」の生活をめざしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に所属し、防災訓練や夏祭りに利用者様と共に参加し有意義な時間を過ごしている。また毎朝の散歩ではご近所の方々と挨拶や会話を交わし、交流を深めている。	地域との付き合いは良好で、夏祭りに利用者が参加し屋台での買い物や雰囲気を楽しむことができる。今年度はバイオリン演奏のボランティア訪問があり、利用者が聞き入る様子に職員からも受け入れてよかったとの声があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括の主催する情報交換会に参加し、地域住民や民生委員の方々等に、認知症対応型の当ホームの特徴をお知らせし 地域において貢献できることがあれば相談を受け付けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ご家族・自治会長・民生委員・地域包括職員等に ご出席いただき、評価の報告や取り組みについて話し合い、ご意見を伺い参考にしている。	運営推進会議は、毎回責任者を替えて開催している。各職員が分担することで意識も向上し、会議の内容も単調にならないで済んでいる。記録は会議録に残し職員が回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を 毎回市役所に提出し討議内容を報告している。また手続き上の分からない事や生保関係については随時、問い合わせ報告し連絡を取っている。	分からないことがあれば、市担当者に電話で聞くようにしている。例えば、東日本大震災による被災地からの転居者の受入について市職員と相談することにより、スムーズに受け入れにつながっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」のもとに、職員は社内教育課程において身体拘束について学び、開催される外部研修にも積極的に参加して身体拘束のないケアに努めている。	認知症でも束縛する必要はないという方針がある。スピーチロックについても年数回外部研修に参加するなどして理解を深めている。あまりにも集団生活になじめない症状の場合は、医療機関などに相談している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、社内研修及び外部研修において虐待について理解しており 事業所内で虐待が行なわれないよう防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で権利擁護について取り上げ成年後見人の方からお話を聞いたり、当ホームの入居者様の中で、自立支援事業や成年後見制度を利用している方のケースを通して 権利擁護制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際のサービス契約締結時や契約の改定時には、丁寧に説明を行って質問を頂き 納得して頂くように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を二ヶ月に一回開催し家族の意見や要望を汲みあげる様に努め、介護相談員の一月に一度の来訪で利用者が外部者に意見を言える機会を作っている。各フロアーには意見箱を設け御家族や来所者の意見を受付けている。	意見箱を設けている。また、運営推進会議では自由に話し合う時間を確保し、家族からの疑問や相談を聞く機会にもなっている。介護相談員による会話の機会も活用して、利用者からの要望や意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を一月に一度開催し、運営に関する法人の方針を周知させると共に、職員の意見や提案を聞くようにしている。	運営の方針については職員間で話し合っている。今年は台風の接近もあり、災害時に備えての手順や備蓄について積極的な意見があげられたなどの例がある。	個人面談など、職員ひとりひとりの意向の把握が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は介護職キャリアパス運用規程を設け、職位や資格等により賃金体系を定めている。 また、研修費補助規程を設け、職員が個々に研修、研鑽する費用を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、一般職員にはA、B、AA課程、管理職にはE、D課程と段階を追って教育課程を設けて実践している。また、職員にはヘルパー2級資格を取ることを義務付け、外部講習を受ける勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松原包括支援センターが主催する地域事業者の会合や、事業者の運営推進会議への出席による交流を通して 地域のネットワーク作りと相互のレベル向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、既往歴や生活歴、家族からの普段の様子等を参考に 積極的に話しかけたりして本人の要望を傾聴して安定した関係を作り、他利用者と早く馴染めるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、ご家庭でどんなことで困って入居を希望されたのか、普段の様子やご苦労を伺い、ホームで出来るサービスをお話ししながら、ご本人が居心地良い空間が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で、ご本人が何を望んでいるのか、ご家族が何を一番望んでいるかを伺い、職員の情報共有の元に様子を把握し、ご本人状態や要望によりサービスを変更していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活を共に過ごし、喜びを分かち合い励まし合いながら 暮らしを支えられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の信頼を元に、連絡を定期的に取り合い、変化のある時はその都度連絡を密にして共通の介助で、本人を支える関係を作る努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や外部からの訪問者を歓迎し、これまでの人間関係が継続でき希薄にならないように、安心して暮らせる環境やを作っている。	知人の訪問も受け入れているので、利用者にとっては家族とは違ったかかわりが継続できている。従来から利用している美容院などに継続して行けるような支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者其々の個性を把握し、人間関係でぶつかることなく気持ちよく生活できるように、潤滑油としての役割を果たし 共同で過ごすことの楽しみを感じてもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られても、折を見て訪問し、その後の様子をうかがうようにしている。また、役に立つことがあれば、情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動などから、利用者が何を望んでいるかを推測し、本人の意思を尊重し意向に沿うように努めている。	家族からの聞き取りを行っているが、普段の会話からも新しく把握できることは多いと認識している。職員主導による取り組みだけでなく、毎日の生活が落ち着いてできることも大切と考え、利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査や、本人やご家族からの聞き取りにより、これまでの生活歴を把握し、これまでの受けてきたサービス利用を考え合わせて、これからの介護サービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、毎日の生活から状態を観察し 介護記録や詳細記録に記入して 職員が共通の情報の元に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人の希望を元に、本人、家族、医療関係者等の意見を聞き、幅広く意見やアイデアを取り入れるように努めて快適な空間が出来るようにしている。	担当制を設けているが、視点が固着しないように全員の意見を取り入れるようにしている。3か月に1回モニタリングし2号館、3号館では利用者の出来ることを活用した支援について話し合いをおこなっている。	課題の少ない利用者については、目標設定とケア方針について事業所独自の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や介護詳細記録、排泄チェック表、血圧表、申し送り表等で 職員は情報を共有し介護計画の見直しやケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の経済的状況を視野に入れて、専門的な病院への受診介助や外出支援、社協や権利擁護の利用など、ご家族と相談して行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や友人などの人間関係を把握し積極的に訪問していただけるよう環境を整えている また、関係の民生委員の方などの訪問を歓迎している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族が信頼をおけるかかりつけ医とは、常に情報を共有して定期的に受診し、アドバイスを頂き、ケアに反映させている。	2週間に1回、協力医に状態を報告し、また受診の際にも服薬など今後のケアについて相談している。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしているが、職員が同行すること多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、利用者個々の状態を観察把握し、気がついた時は、医療面のアドバイスや処置を指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供し、より円滑な治療を受けられるように努めている。また入院後は定期的に訪問し、情報の収集と退院に向けての受け入れ態勢の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化する可能性がある利用者のご家族とは、状態の経過報告を随時行い、ホームで出来ること出来ないことを理解して頂きくと共に、本人とご家族の意向を伺い、病院関係者との相談の元に介護支援に取り組んでいる。	グループホームとして出来る介護の限界について契約時に説明している。重篤化した場合は医療機関や家族と協議している。また重篤化する前から時間をかけて家族に報告することで、家族との関係継続に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員はホームで行われる防災訓練において、緊急時の対応訓練を受けており、実地訓練を行うことでいつでも対応できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は地域の防災訓練に参加すると共に、ホームで年2回行われる避難訓練に、利用者と一緒に参加し、昼・夜の地震の時、津波の場合等を想定して訓練を行なっている。また近隣消防署職員による消火器使用方法の訓練も受けている。	内部開催の訓練は津波や火事も想定し、利用者也参加している。災害時には職員だけでは対応できないことも予想されるので、地域の方に防災訓練への参加や協力を呼び掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者を敬い言葉遣いに注意し、居室への出入りなどはノックするなどプライバシーを尊重するように心掛けている。	法人内の教育課程に基づいて、個人の尊重やプライバシーを尊重した接遇の教育をしている。職員は利用者ごとに性格が違う事を留意して、利用者との接し方に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現をすることが難しい方でも、日常生活の行動や言動などから要望を推測し、自己決定できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日常の体調や気持ちを観察、把握して、その日の状態にあった介護が出せるように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し自ら気に入った洋服を選んでもらったり、季節感の分からない方には快適に過ごせる衣類の着用を助言援助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1度のお楽しみメニューでは普段あまり出でないメニューを考えたり、意見を聞きながら好みの食事が出来るように工夫している。入れ歯の方には刻み食等個々に合った調理し対応している。利用者は食器拭き等、お手伝いに参加してい	味、量、温度など嗜好調査をおこない、好みの食事を提供している。2号館は寿司を好む利用者も多く、希望に応じてちらし寿司などを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分チェック表で毎日の摂取量を確認し、食事量の少ない方には、補助食品などを利用して栄養確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の出来る力に合わせて、洗面台へと誘導し、出来ないところは見守り介助して口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、介助の必要な方には、時間を決めて誘導を行い、個々が自然な形で排泄する習慣が出来るように援助している。	原則として自主的に排泄できるようにしているが、必要に応じて職員が誘導することもある。自宅で暮らしていた時に比べて生活リズムが守られるようになったため、リハビリパンツから布パンツなどに改善されることも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の面からも 毎日の公園への散歩を習慣し、体を少しでも動かすことに心掛けている。 排便をチェック表で確認し、排便の無い日が続くようであれば医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の血圧や体温など体調の確認を必ず行い、安全を確保し、その日の気分や調子を見ながら、入浴介助を行なっている。お風呂に入ることを喜ばれ、日曜日を除く毎日、入浴されている。	日曜日を除いて毎日入浴を提供している。2、3人が一度に入浴できるが、個浴を希望する利用者には個浴を提供している。冬至にはゆず湯を提供し、季節感を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床する時間に合わせた寝室の温度調節や リネンの清潔に注意し、空調の温度調節は個々の好みを考え対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の服用目的や副作用について理解しており 朝昼夕、寝る前の薬を把握し間違いの無い服用を援助している。また症状を観察し変化のあるときは、迅速に医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	等、役割があり毎日の生活を共に支えている。 毎朝の散歩は習慣となっているが、他階との歌の会や将棋の対局などを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園には毎日出掛けている。その方の歩行能力に合わせて合うコースを歩き自然と触れ合う様にしている。ご家族が来所されると昼食に出掛けられる方もいる。	毎日午前中に散歩に出かける事を日課としている。散歩の無い日には買い物など自動車が出かけることもある。2号館、3号館は今年度、近所の東海大学の水族館に行き、昼食は屋外で食べるなど、事業所とは違った食事環境を楽しむことができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立されている方は、希望に応じて商店で買い物をしたり、外食に出掛けられることもある。 外出が困難な方は、職員が希望の物を伺い購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば家族や友人と電話連絡が取れるように支援している。手紙を買いたい希望があれば代筆援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心掛け、余分なものは直ぐに転倒の危険の無い空間を作っている。季節のよって強い日差しが入るホールや居室はカーテンの開閉を小まめにし調整している。温度湿度計を設置して空調を調整している。またホールには季節に応じた物を掲示している。	2号館では、季節の飾り付けをおこない、殺風景にならない取り組みがある。共用空間には行事の写真も飾られ、季節感が視認された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい方やテーブルを使って作業されたい方、トイレが近い方など、個性にあった居場所を検討し、居心地良く過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族と相談し、ご本人の希望や生活習慣を優先して、危険の無い安全な居室を作るように努めている。	居室の掃除は職員がおこなっているが、手伝える利用者は一緒に居室の掃除をおこなっている。2号館では車いすを利用する利用者も居るので、家具が持ち込まれていても移動のための広い空間が確保されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなっており、廊下に設置された手すりを使って自立して移動できるようになっている。安全性を重視して物の配置に工夫配慮している。居室、トイレ、浴室等分かりやすいように目印をつけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりがその人らしく安心して暮らせる「第2のすまい」を目指し、家庭的な環境づくりを心掛けて管理者・職員一同取り組んでいる。	家庭的な状態をめざし、普段から家族と同じように生活できるという観点で支援している。散歩をして近所の人と会話するなど「ごく普通」の生活をめざしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は毎日公園への散歩に出かけ、近所の方との挨拶や会話を交わしたり、地域の夏祭りにも毎年参加している。	地域との付き合いは良好で、夏祭りに利用者が参加し屋台での買い物や雰囲気を楽しむことができる。今年度はバイオリン演奏のボランティア訪問があり、利用者が聞き入る様子に職員からも受け入れてよかったとの声があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通していろいろな方々の意見を伺ったり、利用者が地域の一員として生活していくうえで、認知症についての理解をさらに深めてもらう場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告や外部評価の結果を報告したり、ご家族や地域の方々の意見・助言・質問などを伺い、参考とさせていただいている。	運営推進会議は、毎回責任者を替えて開催している。各職員が分担することで意識も向上し、会議の内容も単調にならないで済んでいる。記録は会議録に残し職員が回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の方が多くこともあり、生活支援課の方とは普段より報告相談を行ったり、密に連携を取っている。運営推進会議にも参加していただいている。	分からないことがあれば、市担当者に電話で聞くようにしている。例えば、東日本大震災による被災地からの転居者の受入について市職員と相談することにより、スムーズに受け入れにつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内における研修において職員は身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしない介護を行っている。機会があれば外部の講習会にも参加している。	認知症でも束縛する必要はないという方針がある。スピーチロックについても年数回外部研修に参加するなどして理解を深めている。あまりにも集団生活になじめない症状の場合は、医療機関などに相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内における研修において職員は虐待防止について正しく理解しており、常に重大な課題として受けとめ、日々のケアに努めており虐待は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や権利擁護の利用者が数名おり支援している。成年後見人制度についても以前利用されていた方がいらっしゃり、成年後見人の方に講義をしていただき学ぶ機会も設けられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定等の時には、ご家族に丁寧に説明を行い、理解・確認していただいたうえで、署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でご家族に意見・要望を求めている。施設内に意見箱を設けたり、介護相談員の訪問の際には、利用者からの意見を聞く機会を設け参考にさせていただいている。	意見箱を設けている。また、運営推進会議では自由に話し合う時間を確保し、家族からの疑問や相談を聞く機会にもなっている。介護相談員による会話の機会も活用して、利用者からの要望や意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を開催しており、運営方針を伝達すると共に、職員の意見や要望を聞く機会を設け日常の業務に反映させている。	運営の方針については職員間で話し合っている。今年は台風の接近もあり、災害時に備えての手順や備蓄について積極的な意見があげられたなどの例がある。	個人面談など、職員ひとりひとりの意向の把握が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や年数も考慮され、研修・講習会への参加も徐々に充実してきている。また資格を取得することにより資格手当として反映される。少しずつではあるが改善されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた社内研修が整備されており、実践に役立つ取り組みやレポート提出が義務づけられている。また外部研修も調整をしながら参加できる機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域調整会議などを通じてより良いサービスの向上を目指し、情報交換をしたり、勉強会などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の今までの生活歴や性格を把握した上で、本人の言葉や訴えに耳を傾けながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見・要望を伺いながら、ご家族が抱えている問題を聞き取り、求めているニーズに近づけるように常に連絡をとりながら信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず利用者にとって最優先にどんなサービスが必要かを見極め、その後は生活の様子を見ながら、他のサービスの提供もできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ時間を共有することにより、新しい発見が見つかるとともに信頼関係を築いている。また家事などに参加していただくことにより、日々の生活の中でその人なりの役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係を理解しながらお互いに良い関係が築けるよう支援している。病院受診の付き添いをお願いしたりしてできるだけ協力してもらえるような働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、友人や親戚の方々の訪問を歓迎し、外出など気分転換になるような機会を作ってもらえるよう働きかけている。	知人の訪問も受け入れているので、利用者にとっては家族とは違ったかわりが継続できている。従来から利用している美容院などに継続して行けるような支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり性格や育った環境も違う中での毎日の生活が穏やかに送れるよう、また孤立することのないよう、より良い人間関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた利用者さんの所へ訪問したり、その後の様子を伺うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見や要望に耳を傾け、自立の程度を見極めながら本人の意向・意思を尊重するよう心がけている。	家族からの聞き取りを行っているが、普段の会話からも新しく把握できることは多いと認識している。職員主導による取り組みだけでなく、毎日の生活が落ち着いてできることも大切と考え、利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らし方や生活環境など本人や家族より情報収集を行い、これまでの生活を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察において一人ひとりの状態を知ることにより、それぞれが一日を有意義に過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察や本人の希望、家族からの情報収集などともに、定期的なカンファレンスを実施し、より良い介護計画を作成できるように努めている。	担当制を設けているが、視点が固着しないように全員の意見を取り入れるようにしている。3か月に1回モニタリングし2号館、3号館では利用者の出来ることを活用した支援について話し合いをおこなっている。	課題の少ない利用者については、目標設定とケア方針について事業所独自の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事・変化・様子を常に個別記録に記入し、その情報は常に職員間において共有し、状況に応じて介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診や外出など職員が付き添ったり、必要に応じて社会福祉協議会などの機関を利用するなどの支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方やボランティアの方または身近な方の訪問を受け会話したりすることにより、一人ひとりが自分らしく豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には定期的に受診を受け、普段の様子も報告している。治療に関するアドバイスをいただきながら、また精神面においても相談にのっていただいている。	2週間に1回、協力医に状態を報告し、また受診の際にも服薬など今後のケアについて相談している。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしているが、職員が同行することも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問を受けており、利用者の状態や様子を説明・相談し、医療面でのアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関にも相談・助言を受けながら、ご家族に本人の状態や内容が十分理解していただけるよう説明し、その後の方針を共に考え決定するよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関にも相談・助言を受けながら、ご家族に本人の状態や内容が十分理解していただけるよう説明し、その後の方針を共に考え決定するよう支援している。	グループホームとして出来る介護の限界について契約時に説明している。重篤化した場合は医療機関や家族と協議している。また重篤化する前から時間をかけて家族に報告することで、家族との関係継続に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より全職員は利用者の日々の体調変化に注意し、施設内においても救急法の訓練を行っており、常に緊急時に備えられるよう講習会などにも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により年2回火災・地震・津波・夜間を想定しての訓練を行い、地域の実施に合わせての取り組みも行っている。また消火器の使い方や担架の作り方などの指導も受けている。	内部開催の訓練は津波や火事も想定し、利用者也参加している。災害時には職員だけでは対応できないことも予想されるので、地域の方に防災訓練への参加や協力を呼び掛けている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を尊重しながら言葉使いにも気をつけ、その方にとって最も適した対応をするよう心がけている。	法人内の教育課程に基づいて、個人の尊重やプライバシーを尊重した接遇の教育をしている。職員は利用者ごとに性格が違う事を留意して、利用者との接し方に配慮している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がいつでも気軽に訴えや要望を話せるような雰囲気づくりに努め、できるだけ本人の希望に添えるような声かけを行っている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や状態を観察しながら、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでいただいている。なかなか自分で選択できない方はこちらで支援させていただいている。理容・美容は2ヶ月に一度の訪問サービスにより、本人の希望を交えながらのサービスをうけている。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を取り入れたメニューを考え、食事の提供形態を食べやすく工夫している。片付けは役割を決め手伝っていただいている。	味、量、温度など嗜好調査をおこない、好みの食事を提供している。3号館では魚料理などが好まれ、希望に応じたメニューを提供している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量をチェックをし、季節により水分補給を多くしたりなどの調整を行っている。また体質などにより食材や調理方法を変えての提供を支援している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの習慣を職員が声かけ・見守り・介助により支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングやパターンを把握しながら、定期的なトイレ誘導や訴えがあった時などのトイレ誘導など臨機応変に対応できるよう支援している。	原則として自主的に排泄できるようにしているが、必要に応じて職員が誘導することもある。自宅で暮らしていた時に比べて生活リズムが守られるようになったため、リハビリパンツから布パンツなどに改善されることも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら、散歩や体操等により身体を動かしたり、時には腹部のマッサージを行い、必要に応じ医師と相談しながら服薬などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思や希望を尊重し、快適に入浴できるよう支援している。入浴を楽しみにされている方が多く、ほとんどの方が日曜日を除く毎日入浴されている。	日曜日を除いて毎日入浴を提供している。2、3人が一度に入浴できるが、個浴を希望する利用者には個浴を提供している。冬至にはゆず湯を提供し、季節感を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安眠できるよう天気の良い日には布団を干したり、季節ごとに寝具を変えたり、部屋の温度調整にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報や用法が記載されており、職員はその目的や用法について理解し、状態変化があればその都度医師と相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや、一人ひとりができる範囲で役割を担っている。またそれぞれの趣味に合わせた時間の過ごし方ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の体調を考慮しながら天気の良い日には隣の公園へ散歩に出かけている。ご家族が面会の時には一緒に公園での散歩を楽しまれることもある。受診もご家族と一緒にいられる方は、外食なども楽しまれている。	毎日午前中に散歩に出かける事を日課としている。散歩の無い日には買い物など自動車で行くこともある。2号館、3号館は今年度、近所の東海大学の水族館に行き、昼食は屋外で食べるなど、事業所とは違った食事環境を楽しむことができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じ買い物は職員と一緒に出かけている。外出困難な方は、ご家族にお願いするか職員が代わりに買い物を代行している。管理できる方は少額所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば電話できるよう支援している。毎年、年賀状や暑中見舞いのはがきを書くことを支援し、ご家族からの返事を楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレなどわかりやすい目印をつけている。ホールや廊下にも利用者の作品等を展示したり、季節感を取り入れた飾り付けも利用者と一緒にしている。室温計も設置し、温度管理にも注意している。	3号館では、利用者が創作した季節の作品が飾られていた。共用空間には行事の写真も飾られ、季節感が視認された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどをホールで過ごされる方が多く、共有空間にはテーブルやソファ・テレビを配置し、コミュニケーションの場となっている。自由に好きな場所に腰かけくつろいだ時間を過ごせるような空間づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や日用品を配置するようご家族と相談しながら決めている。また本人の身体機能の状況に応じ改善が必要な場合は本人や家族に相談しながら変更するよう支援している。	居室の掃除は職員がおこなっているが、手伝える利用者は一緒に居室の掃除をおこなっている。3号館では居室からの眺めもよく、清掃も行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机や椅子の配置にも工夫をし、建物内部はバリアフリーとなっており、随所に手すりを設置して利用者のペースに合わせたりハビリもできる環境である。トイレや浴室もわかりやすい目印をつけている。		